

なお、御蔵島では村条例により昆虫採集は禁じられているため、許可を受けて調査を行った。

2exs., 東京都御蔵島村里, 1-5. VII. 2012, 筆者保管.
樹林内の落葉・落枝層をシフティングして採集した。

末筆ながら、現地調査にあたって便宜をはかってくださった、みくらしま観光協会の菱井徹、小木万布の両氏に深謝したい。

引用文献

- 平野幸彦, 1984. *Archaeoglenes orientalis* Sasaji (ゴミムシダマシ科) 千葉県に産す. 月刊むし, (160): 32.
- 平野幸彦, 2006. キイロチビコクヌストモドキ島根県隠岐の記録. 甲虫ニュース, (155):19.
- 酒井雅博, 1993. 四国産甲虫目分布ノート (I). 四国虫報, (29): 176-176.
- Sasaji, H. 1983. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, I. Memoirs of the Faculty of Education, Fukui University Series II(Natural Science) 34: 21-63.
- 上野輝久, 1993. 落葉層のヒラタムシ上科・ゴミムシダマシ上科. 昆虫と自然, 28(2):11-18.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

【短報】アカメガシワの材から羽化したコチャイロコメツキダマシ

コチャイロコメツキダマシ *Fornax nipponicus* Fleutiaux, 1923 は、北海道から琉球・台湾まで広

い分布域をもつ種である。どの地域においても個体数は多く、容易に観察できるが、その生態については、幼虫が朽木や椎茸の椀木(ほだぎ)を食べるということや、幼虫の形態が明らかにされているものの、食樹が特定された例はあまり知られていないようである(福田, 1959; 林, 1986)。筆者は、新井孝雄氏からいただいた標本の中から、アカメガシワ *Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell. Arg. (Euphorbiaceae) の材から羽化させた本種を見いだしたので、食樹の一例として報告しておきたい。

4 exs., 福島県双葉郡楢葉町井出川林道, 23. XI. 2002 (アカメガシワの材採取), 15. IV. ~ 20. V. 2004 (羽化脱出), 新井孝雄採集(筆者保管)。

コメツキダマシ科は日本から約 80 種が記録されているが、幼虫の食樹が明らかにされている種はきわめて少ない。今回のような事例が今後も蓄積されていくことで、情報に乏しい本科の生態が明らかされることを期待したい。

末筆ながら、貴重な標本をご恵与くださった東京都の新井孝雄氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 福田 彰, 1959. ヒメチャイロコメツキダマシ. 日本幼虫図鑑: 472, fig. 3265. 北隆館, 東京.
- 林 長閑, 1986. コメツキダマシ科, pl. 32. 森本桂・林長閑編著, 原色日本甲虫図鑑 (I). 保育社, 大阪.

(鈴木 互 法政大学二高等学校生物科)

書評

「醤油鯛」

沢田佳久著 2012年9月19日発行
定価1,700円 株式会社アストラ

「醤油鯛」は決して甲虫類ではない。しかし著者の沢田氏は本会会員でもあり、本書は紛れもない分類学書である。なので、職権乱用と言われても本書を本誌上で紹介せざるを得ない。

醤油が入っている魚型のアレを「醤油鯛」と定義し、その本邦初の図鑑となった本書は、他に類書を見ない、素晴らしい出来である。本会



会員の中には、(私のように) 図鑑の収集家も多いと思うが、本書は必ず入手すべきアイテムであり、ぜひ本棚の原色甲虫図鑑の横に並べて飾っておきたい。そして時々めくっては、にやにや眺めて欲しい。本書を読むと、集めることからはじまる学問分野があることに気付かされるし、名前を付けることの重要性も再認識させられる。

ちなみに、本書の入手後に、とあるパーティで「醤油鯛」を発見し、こっそりと持ち帰り調べたところ、きちんと同定することができた。つまりは実用性もかなりありそうだ。

(愛媛大学ミュージアム
吉富博之)